

岡村（2002）によれば，鏡川では1960年以降20年以上にわたりカマキリが消滅しました．もちろん，鏡川のカマキリは土佐湾沿岸から浦戸湾を経て鏡川に到着します．ようやくにして鏡川に到着しても，鏡川の水質が汚染され，土木工事による土砂が流入していればカマキリは生息できません．また，カマキリは遡上力が弱く，ちょっとした人工堰も大きな障害物となります．



1ページの個体と同一個体のアルコール標本．白い矢印はエラぶたにある一番上のトゲを示す．

河川にたどり着いたカマキリは水生昆虫などを餌として成長を続けますが，次第に魚を餌とするようになります．すなわち，魚食魚になるわけです．

カマキリのエラぶたには4本の鋭いトゲがあります．一番上の棘がもっとも長く，しかも上に向けて曲がっています．

動きの鈍いカマキリがアユなどの遊泳魚を捕らえることができるのは，この鋭いトゲがあるからです．トゲで引っかけた餌を頭から丸のみにします．カマキリの成魚の生活は他の多数の小魚により支えられています．カマキリはこのような条件を満たす清流域でないと生息できません．

以上のように，カマキリの存在は汽水域ならびに河川の中・下流部の自然度を知らうえで大きな手がかりを与えてくれるのです．

2004年7月7日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します．複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします．